

企業の環境格付けとその活用の可能性

2004年10月27日

環境省「社会的責任(持続可能な環境と経済)に関する研究会」
(第2回)

NPO環境経営学会 幹事 五所 亜紀子

NPO環境経営学会 (Sustainable Management Forum of Japan (SMF)) について

環境経営学会は、工学、経営学そのほかの関連諸科学と諸経験を総合し、マネジメント・フォー・サステナビリティの確立のため、研究者、経営者、市民の理論的・実証的研究の場を開設し、次のことを含む幅広い研究活動を行い、これらの研究成果を実社会に根付かせる普及啓発活動も行う。

■ 目的

- (1) 利潤の追求、環境保全、倫理の確立の三者が共に成り立つような社会システムの形成の研究と提案
- (2) 産業活動・経営のグリーン化へのインセンティブの研究と提案
- (3) サステナブル社会のための大学、企業、市民、行政間シェアリングの研究と提案
- (4) 経営の環境リスクとその回避策の研究
- (5) 地球環境リスクの測定、評価理論の研究

■ 設立年月日 平成12年10月3日 (NPO法人取得:平成14年)

■ 代表者 環境経営学会 会長 三田 和美

■ 会員 企業団体会員:49団体 個人会員:300名

SMF設立の背景および趣旨

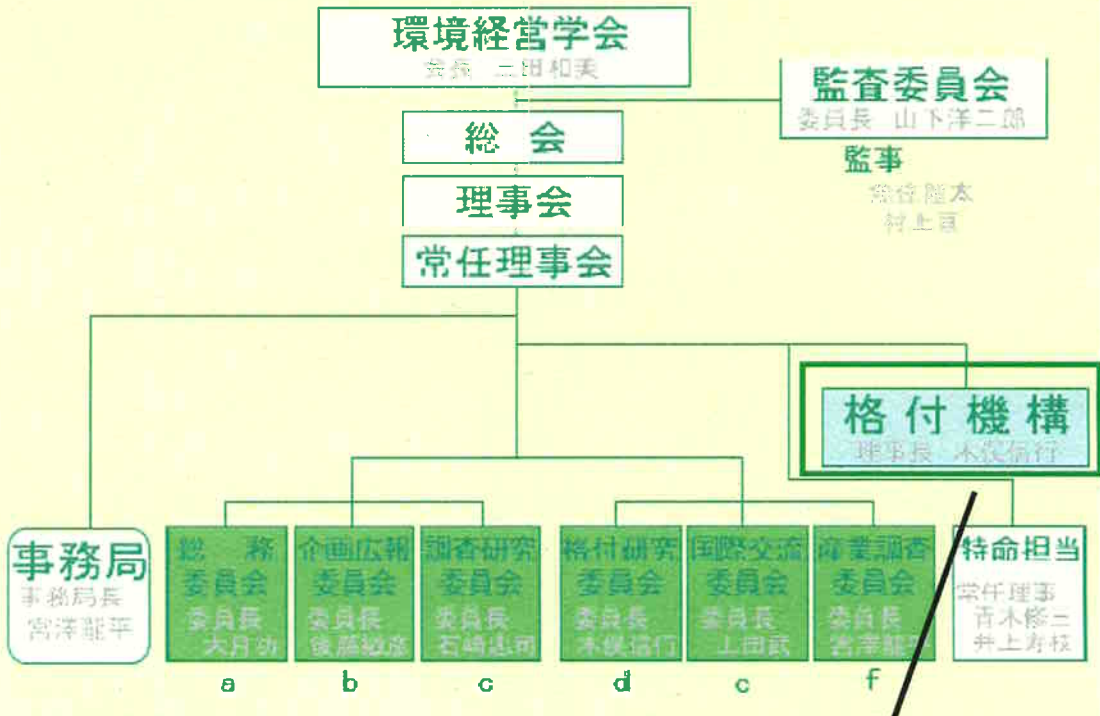
地球規模の環境問題や資源の枯渇、CSRへの取り組みの重要性が増す中で、地球環境問題への抜本的対策と、高度な社会的・経済的倫理観に裏付けられた「循環型社会」構築に向けた取り組みが喫緊の課題となっています。

これに対応するため、事業者と市民が一致協力して環境保全につとめ、資源の効率的使用と循環を進める倫理性の高い社会を構築して行くことが求められます。このためには、学界、Think-tank、産業界及び行政、市民、言論界の有職者が一堂に会し、地球環境問題対応の戦略とプロセスを明らかにしていく必要があります。

環境経営学会は、その方法論・手法の体系的な共同研究、調査、情報発信、表彰等をおこない、Economy—Ecology—Ethics が三位一体となったSustainable Managementの理念を確立し、社会教育及び環境専門家養成教育システム等を実現し、事業経営者や管理者の環境と社会的公正に対する意識を高め、環境経営をめぐる諸問題を検討究明した成果を、内外の行政、学界、言論界、経済界並びに市民社会に対して発信する事により、社会の持続可能な発展の実現を図ろうとするものです。特に、国際的な視野にたった活動が求められています。

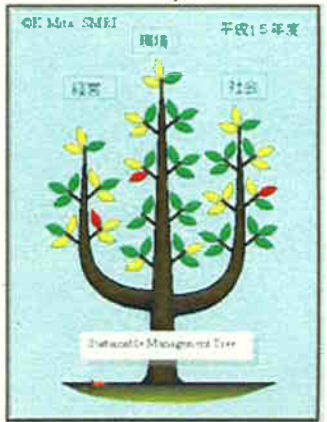
SMFの組織と事業内容

2004年度環境経営学会組織図



事業内容

1. 学術研究事業
 - ・環境経営格付けに関する調査研究(理論)
 - ・環境経営に関する学会誌(サステナブルマネジメント)の発行
2. イベント・シンポジウム事業
3. 環境経営(サステナブルマネジメント)格付事業
 - ・第三回 環境経営(サステナブルマネジメント)格付 → 今年
 - ・第二回 環境経営格付
 - ・第一回 環境経営格付



SMFは、環境経営格付を通じて

SMFの環境経営格付けでは、
組織・企業のトップへインタビューも実施！

SMFは、「何のために、何を（経営者に求め）、（格付けを通じて）何を発信するのか」



環境経営格付を通じて、第三者として、組織・企業の経営を評価する



SMFの環境経営格付けは、
透明性の高い、公正な評価
欧州での格付けは、主観的なもの多い

- (1) その組織・企業の持続可能性のための戦略に役立ててもらおうこと
すなわち、環境（サステナブル）経営の質を向上
- (2) その評価結果を公表して、社会への要請に応えること
すなわち、組織・企業に対して、多様なステークホルダーが抱える
期待、懸念および関心に応えるためのコミュニケーションのツールや場を提供



持続可能な社会の形成へ